

## Fellowship(フェローシップ) 第80号

### 【NPOロースクール奨学金ちゅうぶニュース】

#### NPO 法人ロースクール奨学金ちゅうぶ 会員の皆様

NPO 法人事務局です。いつもお世話になっております。

日頃は、当 NPO 法人の活動にご協力を賜り誠に有難うございます。

法人の現況をお知らせする Fellowship 第80号をお送りします。

【フェローシップとは「奨学金」のこと。Fellow（仲間・同輩）を応援する気持ちを表しています。】

### 第19期奨学生が選出されました

弁護士過疎地へ赴任する志を持つ学生への奨学金事業につき、今期は法科大学院の推薦及び書類選考・面接審査により、下記のとおり奨学生（第19期）が決定しました。

河井 沙織【カワイ サオリ】さん（名古屋大学法科大学院 2022 年入学：2 年コース）中弁連枠  
光野 康平【ミツノ コウヘイ】さん（名古屋大学法科大学院 2022 年入学：2 年コース）日弁連枠  
石坂 恵【イシザカ メグミ】さん（金沢大学法科大学院 2022 年入学：3 年コース）日弁連枠

次頁以降に自己紹介文を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

### 奨学金授与式をオンラインで行いました

3月9日に上記3名の奨学金授与式をオンライン（ZOOM）にて行い、10名の皆様が参加してくださいました。

愛知県弁護士会の中根志保副会長（右の写真）も駆けつけてくださり、奨学生へのお祝いの言葉に加えて、当法人の活動が成果を上げていると日弁連でも話題になっていることや、愛知県弁護士会でも法科大学院生向けの研修に力を入れているので折に触れて積極的に活用してほしい、などのお話がありました。

また、弁護士過疎地赴任後に定着され、ご活躍されている3名の元奨学生（東端克博弁護士【静岡県伊東市】、原英士弁護士【北海道新ひだか町】、石井翔大弁護士【石川県輪島市】）も参加し、奨学生の先輩としての現在の心境や、将来の目標なども熱く語ってくださいました。そんな先輩方の思いが伝わったようで、今年の奨学生の中には、早速この春休みに実際に事務所訪問をした方もいらっしゃるようです。

法科大学院での生活は大変なことも多いかと思いますが、辛い時には初心に立ち帰り、奨学金を寄付してくださった皆様の思いを力に換えて突き進んでいただけたら、これほど嬉しいことはありません。

夏頃には、どこかで対面で集まれる状況であることを祈りつつ、授与式は1時間でお開きとなりました。奨学生の皆様のご健闘を一同お祈りしています。



## 名古屋大学法科大学院（2年制コース）



河井 沙織 (かわい さおり)

第19期ロースクール奨学金ちゅうぶ奨学生に選出された、河井沙織と申します。この度は、選出していただきありがとうございます。まずは、学費の心配をせず、勉学に励むことができる環境を提供して下さったこと、感謝申し上げます。

私は中学生の頃から弁護士という職業に興味を持っていましたが、高校生、大学生と成長すると共に、弁護士になるためには経済的負担が大きいことを自覚するようになりました。弟が3人いて、学費の心配が大きかったこともあり、民間企業に就職し、法律に触れることのできる職業を探すことも考えました。しかし、弁護士の道も諦められず、法科大学院の説明会に参加した際、本奨学金制度を知りました。そして、弁護士の偏在を解消するための取り組み、理念に共感し、今回応募させていただきました。

私は韓国へ留学した経験があり、海外に住むにあたって困ったことや、分からないことが多くありました。特にコロナ禍での留学は、今までにない入国手続きや生活様式で、自分一人では解決しきれないことも多くありました。しかし、様々な方々に助けをもらい、乗り越えることができました。そのため、私も困っている人の頼れる存在になりたいと考えています。弁護士過疎地域では、法律問題に関して頼れる弁護士がおらず、紛争を起こすことができないという問題があります。弁護士になったら、留学で身につけた力を生かし、そのような地域に住む人々の頼れる存在となれるよう、地域の人に寄り添った法律相談をしたいと考えております。

法科大学院に通うことで、勉学だけでなく、法曹として必要なコミュニケーションスキルやその他の能力を培う経験ができると考えています。そのため、ロースクール奨学金ちゅうぶの奨学生として、関係者の皆様と関わりを持たれたことを、とても嬉しく、頼もしく思います。司法試験まで苦しい道のりではあると思いますが、目標に向かって前向きに努力して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



## 名古屋大学法科大学院（2年制コース）



光野 康平 (みつの こうへい)

NPO法人ロースクール奨学金ちゅうぶ19期生の光野康平です。私は、高校までは出身地である名古屋市にいましたが、大学4年間は金沢大学の学生として金沢市で暮らしていました。来年度は、名古屋大学法科大学院の学生として再び名古屋に住むことになりました。この度は、奨学生として選出していただき誠にありがとうございます。支援者の皆様の期待に応えるためにも、2年間司法試験合格に向けて頑張りたいです。

私が法律家を目指すようになったのは、小学校低学年の頃に検察官が主人公の『HERO』という日本のテレビドラマを見て「検察官ってカッコイイな～」と思ったからです。今考えると、そのあこがれは主人公を演じていた木村拓哉さんの魅力によるものが大半だった気がします。あのとき触れたドラマが違えば、私はアイスホッケー選手や美容師になっていたかもしれません。それに、現在は検察官ではなく弁護士を目指しています。それでも、このドラマは私に夢を与えてくれた大切な存在です。

大学2年の冬、ロースクールの学費を負担することはできないと親から伝えられ、自分で工面で

きる方法を探していた時、奨学金ちゅうぶを知りました。当時は、院試対策期間やロースクール在学中もアルバイトしながらの勉強を覚悟していました。でも、本奨学金の存在のおかげで、昨年は院試対策に集中でき、今後も気兼ねなく司法試験合格に向けて力を注ぐことができそうです。私は4年間の学習を通じて、法律というものが社会問題をより公正に解決するために人類の英知が創り上げた道具であると実感しました。そんな法律の担い手である弁護士が不足する地域をなくそうとするロースクール奨学金ちゅうぶの理念には深く感動しています。また、自分がこうした理念に共感した方々に支えられていると思うと非常に身が引き締まります。最後になりますが、皆様からのご支援に改めて御礼申し上げます。



### 金沢大学法科大学院（3年制コース）

石坂 恵 (いしざか めぐみ)

皆様はじめまして。この度ロースクール奨学金ちゅうぶ第19期生に選出いただいた石坂恵と申します。

私は長野県長野市で生まれ育ちました。大学卒業後地元に戻り社会人を経て法科大学院へ進学します。

私が目指すのは町医者のような身近な法律家です。生まれ育った地域は、過疎化が進む山間地です。地域性もあり弁護士に相談することは一般的ではありません。常々、都市部の人たちとの法的条件格差を解消する手助けがしたいと考えていました。

今回大学院受験時に、大学院からの案内でロースクール奨学金ちゅうぶの存在を知りました。ゼロ・ワン地域での活動の必要性を改めて認識し、自分の目指す方向性と合致している点に深く共感しました。また職を辞して大学院に臨むにあたり学費の工面は悩みの一つでした。その点、学費の支援をいただくことで勉強に集中できることはとても心強いと思いました。そして説明会で弁護士の先生方の熱意あるお話を伺い、全国で活躍されている皆様方に続けたいと強く思いました。奨学生になれば、志を同じくする先輩方と出会え、もしも困難な状況になったときは、先輩方の軌跡を道しるべに頑張れると思いました。

司法試験合格後弁護士として過疎地域へ赴任した際は、地域に溶け込み依頼者に寄り添った支援ができたと思います。社会人時代、農協職員、学童保育施設の支援員、学習塾責任者として労働者側と経営者側両方の立場を経験したことを今後の活動に活かしたいです。特に子どもの人権、労使問題、女性支援、外国籍労働者支援に取り組めたらと思っています。

奨学生に選出いただき、皆様から応援していただける喜びを力に変え、精一杯頑張ります。恩師の「立派な人になりなさい」を胸に、志高く目標に向かって行きたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。今回は本当にありがとうございました。



